

＜ 今日の説教のポイント テモテへの手紙Ⅰ 1章1～2節 ＞

1 自分をテモテだと思い、神様が語られる言葉に聞いていこう。

これからパウロが個人テモテに書いた手紙の言葉に聞いていきます。テモテはパウロから洗礼を受けた弟子であり(Ⅱテモテ 1:6)、良き信仰者になった人でした(Ⅰコリント 4:17)。新しい年に入り、これから「テモテへの手紙Ⅰ」を読んで行きますが、自分をテモテだと思ってパウロの手紙を読むことを大事にしていきたいと思います。

2 (1) 手紙を読むコツは、一語一語に込められた意味を味わうこと。

見出しに書いた通りです。パウロは、「わたしたちの救い主である神とわたしたちの希望であるキリスト・イエスによって任命され」と、知らない人は神とイエス・キリストの二者から任命を受けたのかと思う言い方をしていますが、そうではありません。パウロが神とイエス・キリストを分かちがたい一つなるお方として考えていることを、ここから私たちが新たに知らされ、考えるようになるべきことなのです(「我、知解せんがために信ず」アンセルムス 12世紀)。

まず、「わたしたちの救い主である神」は、旧約聖書で普通に使われる表現です。その神様が私たちが罪から救い出して下さる方法が御子なる神イエス・キリストとして私たちの中に神様が来て下さったのです。それ故に、イエス・キリストは「わたしたちの希望」だとパウロは言うのです。また、パウロは、キリストの再来、つまり救いの完成の時が用意されていると知らされたこともここで「希望」と表現する理由です(テモテⅠ 6:14-16)。すなわち、パウロは、旧約聖書の神様が新しい内容を加えられたのがイエス・キリストの出来事だと語っているのです。神様から「任命され」「使徒」となった — これも普通より重々しい表現が使われています。

3 神様の「恵み、憐れみ、平和」を本当に欲するなら。

私たちは日曜日に礼拝しに主の教会に集います。それは、パウロがこれだけ重い内容を込めて語る神様の出来事に打たれて、何よりも大事にすべき時だと知ったからです。礼拝は、幾つもの選択肢の中で「今はこれを大事にする」といった程度のものとは違うのです。パウロが語る神様からの「恵み、憐れみ、平和」(2)とは何か? これから、私たちが真剣に神様に向かい、み言葉から聞いていきたいと思ひます。